



介護現場における 介護生産性向上への 取り組み



目的

介護現場における人材不足が深刻化する中、介護サービス事業所向けのワンストップ型相談窓口等の機能を有する「ひなた介護DX支援センター（ひなカイ）」を設置・運営し、介護現場における生産性向上を推進することにより、介護職員の負担軽減及び介護分野の魅力向上による介護人材の確保・定着を図ることを目的としています。

ひなた介護DX支援センター（ひなカイ）では、介護現場の生産性向上に向けた伴走支援を行っています。本パンフレットでは、令和7年度に専門家による伴走支援を活用して業務改善・DX化に取り組んだ3事例をご紹介します。

支援内容

① 相談対応 (スポット支援)

生産性向上・業務改善に関する各種相談に対応、専門家の派遣などの支援を行います。

② 伴走支援

介護現場の課題分析や解決に向けて専門家による長期的な伴走支援を行います。

③ 研修会 (セミナー)

業務改善やその大きな支援ツールとなる介護ロボット・ICT機器の利活用についての研修を行います。

④ 展示会 ⑤ 機器展示

生産性向上・業務改善に活用できる代表的な介護ロボットの常設展示、及び展示会を開催いたします。

⑥ 試用貸出

介護ロボットやICT機器導入に向け、使用感や効用について事前に確認できます。

① 生産性向上・業務改善に関する相談対応

介護現場における生産性向上や業務改善に関する各種相談に対応します。

窓口担当者のほか、必要に応じて専門家を派遣し（スポット支援）、助言等の支援を行います。

② 生産性向上に向けた伴走支援

課題の見える化や改善方法（業務効率化、介護ロボット選定方法等）に関して、専門家が長期的に支援を行います。

流れ

- (1) 課題の把握と分析：専門家と協議して課題を把握・分析
- (2) 業務改善活動の検討：課題に対する業務改善計画を検討・策定
- (3) 業務改善活動の実施：計画に基づき業務改善計画の遂行
- (4) 効果検証・報告：効果を検証し、成果報告

※伴走支援を実施できる事業所数に限りがありますのでご了承ください。

相談
費用

無料

相談
方法

TEL.0985-31-0261

(9:00～17:00(土日祝・年末年始は除く))

(公財)介護労働安定センター 宮崎支部

〒880-0812 宮崎市高千穂通2丁目1番2号 睦屋第3ビル4階

③ 研修会 (セミナー) ④ 機器の展示会 (イベント)

業務改善やその大きな支援ツールとなる介護ロボット・ICT機器の利活用についての研修を開催します。
あわせて代表的な介護ロボット等の展示会を開催します。

介護ロボット・ICT機器の 展示・試用貸出

⑤ 展示会場 (常設展示場)

〒880-8515 宮崎市原町2-22
宮崎県福祉総合センター 人材研修館1F
(9:30～16:00(土日祝・年末年始は除く))

⑥ 試用貸出

- 移乗支援機器
- 見守りセンサー
- コミュニケーションロボット
- アシストスーツ

貸出
費用
依頼
方法

無料

まずはお電話ください
(ご相談の方は要予約)

※貸出期間は、2週間～1カ月となります。(機器により若干異なります)
※原則として1事業所さま同機種1回限りのご利用となります。
※別途定める「貸出ルール」をご確認の上、所定の申込書にご記入いただくことになります。
※試用貸出後のアンケート回答が必須となります。

介護ロボットやICT機器の導入に向け、使用感や効用について事前に確認したい場合にご利用いただけます。



ICT 活用で実現した「利用者に向き合う時間」の創出

社会福祉法人川水流福祉会 特別養護老人ホーム ひえいの郷

所在地 宮崎県延岡市北方町川水流卯 1810 番地 86
職員数 64 名
事業内容 介護老人福祉施設（定員 88 名）



事業所における課題

職員不足が深刻化する中、介護ロボットやICTの導入を検討していましたが、何から取り組むべきか、どのような機器が必要か分からない状況でした。また、従来の業務手順を見直す機会がなく、記録業務に多くの時間を要し、残業が発生していました。さらに、業務に追われることで利用者に向き合う時間を十分に確保できず、職員同士も感謝を伝え合う機会が少ないなど、コミュニケーション不足が課題となっていました。

業務改善の取組

まず、Googleフォームを活用して全職員を対象に業務改善アンケートを実施し、現場の課題を整理・可視化しました。

次に、ケア記録AIアプリ「FonLog」を導入し、利用者へのケア内容をスマートフォンからその場で記録できる環境を整備するとともに、利用者への接触時間・回数・内容をデータとして可視化しました。

さらに、「直接処遇記録ボタン」を設置し、現場で迅速に記録できる仕組みを構築したほか、職員同士が感謝の気持ちを手軽に伝えられる「サンクスボタン」を導入し、コミュニケーションの活性化にも取り組みました。



ケア記録AIアプリ「FonLog」



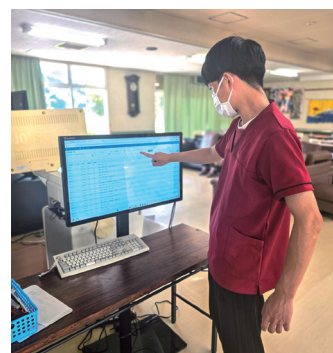
取組の効果

「FonLog」を活用した現場での記録により、多職種間の情報共有が円滑になり、記録時間や残業時間の削減につながりました。また、「サンクスボタン」を通じて職員同士が感謝のメッセージを送り合う文化が定着し、職員のモチベーション向上や職場内コミュニケーションの活性化につながりました。さらに、記録と感謝を意識する風土が施設全体に浸透したことで、利用者と直接関わる時間は職員1人当たり1.5時間から3時間へ増加し、接触回数も約1.3倍に向上しました。

取組後の感想

管理者が「誰が」「どの利用者に」「どのようなケアを提供したか」をリアルタイムで把握できるようになり、業務の透明性が向上しました。また、記録業務の効率化により利用者本位のケアに集中できる時間が増え、小さな変化にも気付きやすくなったことで、事故やヒヤリハットの減少にもつながっています。「FonLog」はスマートフォンから簡単に記録できるため、スタッフルームへ戻る手間やメモ・記憶に頼る必要がなくなりました。また、選択式入力を活用することで、外国人職員やパソコン操作に不慣れな職員でも使いやすく、利用者との会話やケアに充てる時間の確保につながっています。

今後は、蓄積したケア記録データを分析し、個別ケアプランの見直しや介護サービスの質の向上に活用するとともに、「サンクスボタン」の定着や「FonLog」の機能改善を進め、利用者・職員双方が笑顔で過ごせる施設づくりを目指していきたいと考えています。



アドバイザーからのコメント

「作業を減らし、関わりを増やす」をテーマに伴走支援を行いました。漠然としていた業務負担をデータで可視化したことで、職員全体が課題を共有し、改善に主体的に取り組めるようになりました。その結果、わずか1か月で利用者・職員双方のウェルビーイング向上につながる成果が見られました。今後は、AI音声入力などの活用によるさらなる業務効率化を進めるとともに、創出した時間を利用者へのケアに充て、「サンクスボタン」による相互承認の文化を施設全体へ定着させることで、より質の高い介護サービスにつながることを期待しています。

情報共有の仕組み改革で実現した 業務効率化と職員負担の軽減

医療法人相愛会 介護老人保健施設 相愛苑

所在地 小林市北西方 66-3
職員数 72 名
事業内容 介護老人保健施設（定員 50 名）
通所リハビリテーション（定員 50 名）



事業所における課題

私用LINEや紙媒体、口頭による連絡が混在していたため、情報伝達にばらつきが生じ、「送った・見ていない」「言った・言わない」といった認識のずれが発生していました。また、休日にも私用LINEへ業務連絡が届くことで心理的負担が生じ、私的な連絡と業務連絡が混在し、重要な情報が埋もれやすい状況でした。

業務改善の取組

まず、職員アンケートを実施し、その結果をChatGPTで分析することで、真の課題が「情報伝達のムラ」であることを客観的に可視化しました。

その上で、情報を「フロー情報」と「ストック情報」に整理し、フロー情報は「LINE WORKS」、ストック情報はGoogleサイトで構築した「相愛苑ポータルサイト」で管理する運用へ転換しました。

LINE WORKSは全職員の貸与端末へ導入し、安全かつ確実に運用するため、既読確認やリアクションなどの運用ルールを整備しました。また、ポータルサイトでは、必要な情報へすぐにアクセスできる環境を整備し、現場で改善を重ねながら運用を定着させました。



話すだけでパソコンへ

取組の効果

LINE WORKSの導入により、公私の連絡を分離したことで、休日に私用LINEへ業務通知が届くことによる心理的負担が大幅に軽減されました。また、運用ルールの徹底により、重要な情報の周知率100%を達成しました。

「相愛苑ポータルサイト」の構築により、必要な資料を探す時間が大幅に短縮され、これまで約10分かかっていた資料検索が約1分で完了するようになりました。さらに、これまで職員へ確認しなければならなかった情報も、自ら検索して即座に確認できるようになり、職員間の情報格差の解消と業務の効率化につながりました。



相愛苑ポータルサイト

取組後の感想

これまでの申し送りノートは所定の場所まで確認に行く必要がありましたが、現在は手元の端末からいつでも情報を確認・振り返ることができ、情報共有が大幅に効率化しました。また、休日に私用LINEへ業務連絡が届かなくなったことで、心理的負担の軽減も実感しています。

今後は、LINE WORKSやポータルサイトの機能をさらに活用するとともに、集めない会議の仕組みづくりなどにも取り組み、職員の業務効率化を進めることで、利用者へのケアの充実につなげていきたいと考えています。

アドバイザーからのコメント

AIを活用した客観的な課題分析により、職員全体が高い納得感を持って改善に取り組むことができました。情報共有の仕組みを見直したことで組織の透明性が向上し、自律的な改善を進める基盤が整いました。

また、構築したポータルサイトは単なる資料置き場ではなく、組織の知識やノウハウを蓄積・共有する「集合知」として機能し始めています。今後は運用ルールの定期的な見直しを継続し、創出された時間と心の余裕を利用者一人ひとりのQOL向上につなげていきたいと考えています。

AI 分析を活用した 情報共有改革と業務改善

社会福祉法人 康生会
特別養護老人ホーム 敬寿園

所在地 延岡市昭和町 3-9-3
職員数 120 名
事業内容 介護老人福祉施設（定員 135 名）



事業所における課題

紙の記録や手書きメモを後からパソコンへ入力する二重入力が発生し、業務負担となっていました。また、情報が複数のフォルダや資料に分散していたため、必要な情報の検索に多くの時間を要していました。さらに、委員会は集合形式でしか協議できず、欠席者の意見を反映しにくいことから、検討や意思決定が進みにくい状況でした。

業務改善の取組

まず、Googleフォームで全職員から困りごとを収集し、カスタムGPT (AI) を活用して課題を整理・可視化しました。

次に、委員会運営にプロジェクト管理ツール「Trello」を導入し、月1回の集合会議中心の運営から、随時進捗を共有・協議できるオンライン運営へ転換しました。

また、Googleサイトで「敬寿園ポータルサイト」を構築し、各種資料や業務情報を一元化するとともに、二重入力や紙運用の見直しなど16項目の業務改善を実施しました。

aams管理画面

取組の効果

ポータルサイトに資料や各種情報を集約したことで、必要な情報を迅速に検索・閲覧できる環境を整備しました。利用者の体重測定結果やショートステイ報告書なども掲載し、情報の一元化を推進しました。

Googleフォームを活用した制服注文では、約100名分の注文をスマートフォンで受け付け、自動集計することで、業務時間を1回当たり約6時間削減しました。また、希望休申請についても毎月約10時間の業務削減につながりました。

利用者120名分の体重測定では、紙への記録とExcel・介護記録システムへの二重入力を廃止し、現場でタブレット入力する運用へ変更した結果、作業時間を4時間から1.5時間へ短縮しました。このほか、物品発注管理や入浴表作成についても自動化を進め、業務負担を大幅に軽減しました。

委員会では、Trelloの活用により会議時間を1時間から30分へ短縮するとともに、時間や場所を問わず意見交換ができるようになり、参加状況に左右されない活発な協議が実現しました。



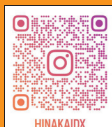
敬寿園ポータルサイト

取組後の感想

アドバイザーの伴走支援により、課題整理から改善までの進め方が明確になり、AIやGoogleサイトなどのデジタルツールを活用した業務改善に取り組みました。今回構築した仕組みを定着させ、継続的な業務改善につなげていきたいと考えています。

アドバイザーからのコメント

ポータルサイトに「利用者申し送り」機能を設けたことで、今後は情報を一元管理し、誰もが必要な情報を迅速に確認できる運用を目指しています。今回の取組はデジタル化だけでなく、「課題を整理し、改善を進める手順を組織として身に付けたこと」が最大の成果であり、組織全体の改善力向上につながったと感じています。



ひなた介護DX支援センターのホームページでは、
これらの内容に加えて、各種情報を掲載しております。

<https://www.kaigo-center.or.jp/shibu/miyazaki/contents/2.html>

ひなカイ

【問合せ先】

ひなた介護DX支援センター

〒880-0812 宮崎市高千穂通2丁目1番2号 睦屋第3ビル4階

受託先：（公財）介護労働安定センター 宮崎支部

TEL.0985-31-0261 FAX.0985-31-0335



日本の
ひなた
宮崎県